



# 真っ直ぐな道はさみしい

ガレージハイブリット  
金子の

プロローグ

## 歳取ると時間旅行ができるんだぜ

読者のみなさま初めまして！ 金子と申します。関東の栃木県南部でガレージハイブリットというXR系をメインに取扱うオフロードバイク店を経営しております。昭和に開業して平成令和と35年が過ぎました。開業は1987年ですから、GoRIDE誌の前身のオフロード専門誌GARRRR誌が創刊して1年目、後追のBackOff誌が登場した年です。

自分の中では35年アツという間でした。ご同輩は実感あると思いますが、成長期の20代までとそこから仕事と子育てをしているとTime flies! 今まさに若いころに老人だと思っていた年齢になっていて愕然とします。

想いの中では、ごく最近のようなGARRRR誌登場で当時自分の趣味としていた「オフロードバイク」をメインに開業することに自信を持ちつつも、「経営すること」と35年に渡る店のローンに怯えていた26歳の青年はじつは、今も同じようなことを続けています。

しかし、35年の時間経過は確かにあり、例えば、僕の生まれた1961年から35年の時間を巻き戻せば「満州事変」で、なんと！ 第二次世界大戦前夜。生まれる10年前は「サンフランシスコ平和条約成立」と、やっと日本の主権を回復した年。自家用車はもちろん、自転車さえ高級品だった時代です。

そんな「時間の流れ」を「歳を得る」と考えたりします。そこで、今回誌面でコラムページを頂けるようになったので、オフロード総合誌のGARRRRの時代の時間軸に、いちオフロードバイク屋が見た歴史的証言を書いてみたいと思います。今なら書いて問題ないこともあるでしょう(笑)。またもちろん、コラムでもあるので極私的なバイクや旅との係わりや、現在の販売店から見たバイク業界や、ライフワークとなったマレーシアをはじめとする東南アジアのライダーとの交流と、現地のツーリング事情なども紹介します。

今回はご挨拶が長くなってしまいました。



↑ 当店が主催しているハイブリットカップ2022の様子。

コロナ禍で、社会はなんとなく停滞感がありますが、そんな中感じることは「オフロードバイク界」また？ 盛り上がってる？ ということです。当店にも「EDレースをやりたい」と訪ねて来られるかたが多いです。また、当店開催のレースもおかげさまで盛況です。また、多くのレースは、締めきりを設けるほどの満員御礼状態になっているとか？

僕の中ではオフバイクは、いく度か「ブーム」を作ってきたと思いますので紹介します(メディアの解釈と違いますが)。

### ①スクランブラーという車両が登場

改造モトクロスラーが登場して、土の上の競技が行なわれ、海外のトライアルやエンデュロが紹介されて、先進的なライダーが日本に根付かせようと努力していたころ。バイクは決してオフ専用の作り込みはしてなかったで、オフ仕様に個々が改造して楽しんでいました(1950年代後半～1970年くらい)。

### ②林道ブーム 旅とオフロードバイク

本来北米やオーストラリアでのファンライド向けのXR250が登場！ 同車の国内用トレール車のXL250SやKL250、もちろんDT1やハスラーの2ストトレールの末裔を駆るライダーが日本中の林道を爆走！ やがて林道や河川敷では飽き足らず「羽鳥サバイバルランド」などレースが開催される。また4サイクルのXL250Sなどは燃費性能もよく快適で、アウトドア道具感もあり、多くのツーリングライダーに愛用されました(1970年後半～1980年代前半)。



### ③高性能市販車が販売される

GARRRR & BackOffの創刊も後押ししたと思いますが、HY戦争、バイクブーム、レーサーレプリカ登場！ 好景気などいろいろ要因はあると思います。オフロードもレーサーと車体、エンジンベースを共用してのリアルレーサーレプリカというか、EDレーサーレベルの市販車の登場、KDX200SRやRMX250Sですね。そして、ドル



バック廃止後のブラザ合意で「円高」に進み、憧れのXRの逆輸入車や外国の本物のレーサーに保安部品をつけて公道に乗り出す、また公道を使った本格的な競技が始まります。つまり今までXLやXLRで林道ツーリングをメインに、たまに草レース参加をしていたライダーが「走るマシン」を手に入れて、本格的なレースにも参加したり、またメーカー開催などのホビーレースや町興しを兼ねた地元密着のレースなども、折からのアウトドアブームやバリダカブームも関連して大盛り上がりでした。この頃を今の50～60代が懐かしむよき時代だった訳です(1989年～2001年)。

さて、現在はそれに続くオフロードバイクブームか？ 確かに年齢の若いライダーが増えているような気がします。また、女子でレースまで参加する人たちも多いです。しかし、昔の「ブームの波」はメーカーからのマシンの提示や外車を入手しやすくなるなど「バイク側」の要素も多いと思います。そこが、現在とは違うような気がします。

そこら辺のことや心配な将来のことは次回に譲りたいと思います。

